



クラシックって楽しいな!

(楽器にまつわるエトセトラ)

クラシック音楽ってとっても親しみやすいものなんじゃ。
クラシックにかかわる楽器のことを知れば、もっとクラシックを
身近に感じることができるんじゃ!



 公益社団法人国際音楽交流協会

〒602-0894 京都市上京区上御霊仲町 457-10
TEL : 075-414-1311 URL : <http://www.imea.or.jp>

このパンフレットは、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





ピアノの音域はとっても
広いんじゃぞ。
まさに楽器の王様じゃわい!

鍵盤楽器

Piano

楽器の王様とも言われるピアノ

ピアノの祖先は「チェンバロ」という楽器です。チェンバロは鍵盤を押すことにより弦を弾いて音を出します。おおよそギターと同じ仕組みで音を出す楽器と言えます。ピアノはイタリアの楽器職人であったクリストフォリによって1700年ごろに発明されましたが、そこには音の強弱をつける工夫が盛り込まれました。現在のピアノは88鍵ですが、発明当時のピアノは50鍵ほどであったと言われていいます。

ピアノは当初、グラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテという名称で呼ばれていましたが、これは「強弱をつけられるチェンバロ」という意味です。

ピアノの鍵盤は7つの白鍵と5つの黒鍵の計12個の鍵盤で1オクターブを構成しています。隣り合う鍵盤同士は全て半音の関係にあり、かつてはこの白と黒が逆だった時代もあったそうです。

ちなみに、ピアノの白鍵や黒鍵の大きさや並び方が現在の様になったのは、1オクターブ分の鍵盤が片手の手のひらを広げた範囲に、88個の全ての鍵盤が両手を広げた範囲に収まること、そして自分がどの音を弾いているか判断できる（1オクターブが仮に白鍵6個、黒鍵6個が交互に並んでいるとすると、どれが何の音かわからなくなりますよね）こと、等がその理由とされています。



ヴァイオリン

クラリネット



トランペット



オーボエ



フルート



※ピアノと比較した色々な楽器のおおよその音域



豆知識 ピアノの鍵盤は何故 88 鍵なのでしょう？

ピアノの鍵盤は何故 88 鍵なのでしょう？

発明当初 50 鍵ほどであったピアノは、その後次第に音域を拡大していき、1890 年頃に現在の 88 鍵に定着しました。これには、多くの作曲家がピアノの持つ表現力の拡大を強く要望したことがその背景にあると言われています。また、私たち人間の耳は約 20 ヘルツから約 20000 ヘルツまでの範囲の音を聞き取ることが出来ると言われています。

しかし、音程として聞き分けることが出来るのは 4000 ヘルツくらいまでです。従って、これ以上ピアノの鍵盤数を増やして音域を広げても、人間の耳には聴き取れない（判別できない）ため意味がありません。このように、音楽的に意味をなす音域を目

指した結果、現在の 88 鍵に落ち着いたと言えます。

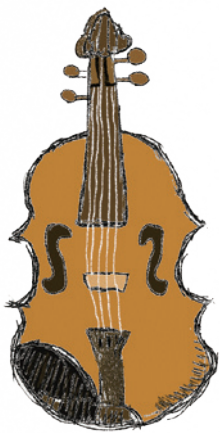
ちなみに、白黒 88 の鍵盤にさらに低音部に 9 つの鍵盤を拡張し、97 個の鍵盤がついたピアノがあります。それはベーゼンドルファーというピアノ製造会社の作った「Model 290 Imperial」です。拡張部分の鍵盤は黒塗りされているので、遠くから一見すると鍵盤があることに気づきません。かつてはその部分に蓋がつけられていたこともあり「隠し鍵盤」と呼ばれたりしていました。しかしながら「隠し鍵盤」は、他の鍵盤を弾いたときに共鳴して響きを増幅させるためのものであったため、実際に演奏されることはほとんどありませんでした。

弦楽器

弦楽器は、まさに「歌う」という表現がぴったりの楽器です。一つの音を弾く場合でも、どの弦を使うか、また弓をどのように使うかで色々な歌い方をします。弦の太さや材質の違いにより、4本の弦はそれぞれ个性的に歌います。私たち人間の声と同じと考えればわかりやすいかもしれません。同じキーで同じ歌を歌った場合でも、それぞれ声の質によって印象は全く変わります。

また、音を出す場合に、どの弦を使用するかは演奏家が指使いやメロディーの雰囲気などを考えて決めたり、作曲家が楽譜に指示したりする場合があります。

弦楽器は管楽器と比べて、音の強弱の変化をつけやすく、長いフレーズを弾くことも容易です。また、様々な演奏方法を駆使して、ゆっくりとした曲、速い曲、静かな曲、激しい曲等、どのような楽曲にも豊かな表現力で対応することができます。弦楽器が絶妙なニュアンスの表現を可能とする楽器であることは、多くの作曲家や演奏家に愛されている大きな理由の一つではないでしょうか。



Violin

もっとも高い音域を持つ弦楽器です。華やかな音色で、オーケストラやアンサンブル、室内楽などさまざまなジャンルで演奏をリードします。4本の弦はそれぞれ個性的な音色を奏で、喜怒哀楽等の様々な感情を表現できます。

ヴァイオリンのために作曲されたコンチェルトやソナタなどの名曲は数え切れず、多くの作曲家や演奏家に愛されてきました。

また、イタリアの弦楽器製作者であったアントニオ・ストラディバリが製作した「ストラディバリウス」という名器は、現在でもヴァイオリニストやコレクターの羨望的となっており、中には13億円近い値で取引されたものもあります。



Cello

高音域が男性の歌声の様であり、その温かい音色は、多くの作曲家に愛されています。サイズが大きいため、ヴァイオリンやビオラのように手で持って演奏することができません。演奏者は椅子に座り、楽器の底のエンド・ピンで楽器を支え両膝の間に楽器を置いて演奏します。

のびのびと高らかに心地よい音を奏でますが、特にA線（一番高い音の弦）で弾く音ではその傾向が顕著で、他の楽器と一緒に弾いても良く聴き取ることができます。また、低音楽器であるにもかかわらず、ヴァイオリンの高音域までカバーするため、音域はヴァイオリンよりも広がっています。このような理由からオーケストラなどでメロディーを演奏したり伴奏したり等、多くの役割をこなし、時にはソロを担当したりと様々なシーンで活躍します。

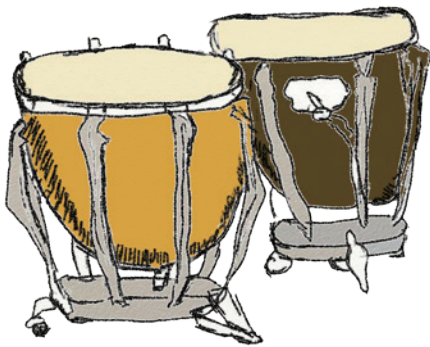
また、ビオラの弓は、ヴァイオリンより短くて重いのですが、チェロの弓はさらに短く、そして重くなります。

演奏家は楽器を使って
聴衆に語りかけてるんじゃない!



打楽器

打楽器は人類が最初に手にした楽器であると言われています。人間は、まず自分の身体（声や手足）を使って音を出し、そして次に身近にある硬いもの（石や動物の骨や牙など）を手に取って、それを叩いたり擦ったりすることにより音を出すという風に進化して来ました。打楽器は弦楽器や管楽器とは異なり、とても単純な構造です。だからこそ、我々人間が最初に手にし、そして身近な存在であり続けているのではないのでしょうか。



Timpani

半球型の金属製胴の上部に皮を張った大型の太鼓で、ネジやペダルを使って皮の張り具合を調整しながら音の高さを変え、音階を演奏することが出来ます。サイズは音域によっていくつかありますが4サイズが主流となっています。中世ヨーロッパ時代に十字軍が中近東から持ち帰った、土製の壺に皮を張っただけの小型の太鼓がその起源とされています。

ティンパニが活躍するおもな作品としてテレビ番組等で話題になったマウリシオ・カーゲル「ティンパニとオーケストラのための協奏曲」では、楽譜の最後に「演奏者が頭から突っ込む」と楽譜に明記されています。

演奏家から一言!



ドミトリー・テテリン
ピアニスト
モスクワ音楽院講師
シンシナティ国際コンクール優勝
チャイコフスキー国際コンクール入賞

ピアニストのドミトリー・テテリンです。私は、モスクワ音楽院中央特別音楽学校からモスクワ音楽院へ進みピアノを学びました。現在はモスクワ音楽院で講師をしながら世界中で演奏活動をしています。若い時は、数年間アメリカ合衆国に滞在して音楽活動をしていたこともあり、日本へもコンサートのために何回も行ってきます。私は、音楽を学ぶ日本の若い生徒の演奏に数多く触れてきました。その正確な演奏にはいつも驚かされます。技術面では日本の音楽学生は世界のトップレベルにあると思います。日本

人の勤勉さがよく現れていると感じています。しかしながら、欲を言えば、もうすこし自由でダイナミックな演奏をして欲しいと思います。楽譜通りに弾くだけでなく、楽曲を理解し、作曲家の心情を想い、そして自分なりの解釈を掘り下げていくことができれば、より芸術的な演奏が可能となります。我々演奏家は、楽器を通じて作曲家の想いを聴衆に届ける橋渡しをしているのです。また日本は、どのような地方都市に行っても、素晴らしい施設とピカピカのピアノがあります。こんな国は世界中探してもどこにもありません。日本国民の皆様にもっともっとクラシック音楽を好きになってもらい、今後は、クラシック先進国として世界をリードして頂きたいと期待しています。小さいときから、とにかく生の演奏に接して下さい!

管楽器

その起源は古代ギリシャや古代エジプトにまでさかのぼり、当時は狩猟や合戦の際に、仲間に合図を送るために使われていました。植物の葉や幹、もしくは動物の角を利用して作られた笛がそうです。動物の角は丈夫で、牛や羊などの角は内部が空洞であるため、先端に穴をあけるだけで簡単に楽器として使うことができました。また、角はおおよそ円錐形であり開口部に向かって広がっているため、音の増幅にとって丁度良い形状であったと言えます。

植物の葉や幹から作られた笛はその後「木管楽器」へと形を変えました。一方、動物の角から作られた笛は、「角管楽器」とはならず、その後素材に金属が用いられるようになったことから「金管楽器」へと変化しました。

木管楽器



Flute 木管楽器の中で高音域を担当し、オーケストラで他の楽器と一緒に演奏しても、良く聴き取ることができます。クラシックにとどまらず、ジャズやロックなど、様々なジャンルで広く演奏されています。

「木管楽器」ですが、現在は金属製のものが主流となっています。元は木製でしたが時代背景とともに、より大きな音量への対応が求められ、19世紀にドイツ人の音楽家であったバームにより金属製のものが考案され現在に至ります。

Oboe 18世紀前半のバロック時代には、まだオーケストラの基本編成は確立されていませんでした。演奏する曲や場所によって楽器や並び方が変化していました。その様な状況の中、オーボエは管楽器の中では最も早くオーケストラで定位置を獲得しました。

また、木管楽器の中で習得が最も難しい楽器と言われていますが、奏者が自らリードを作らなければならない、温度や湿度によって音の良し悪しが左右されやすいというのがその理由の一つです。

ちなみに、オーボエはオーケストラのチューニングの時に最初に音を出す役目を担当しますが、これは音程がくるいにくく音がよく通るからです。



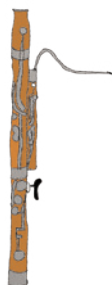
Clarinet ルネサンス期にはまだ発明されておらず、木管楽器の中では最も歴史の浅い楽器です。オーケストラで定位置を獲得したのは19世紀前半の、ベートーヴェンが活躍していた時代でした。

演奏可能音域は約4オクターブと広く、管の長さが同じぐらいのオーボエやフルートと比べて、更に1オクターブ低い音域まで出すことができます。その独特の優しい音色は、モーツァルト、ブラームス、サン＝サーンス、プーランクをはじめ多くの作曲家に愛され、数々の名曲が生まれました。

Fagott ファゴットとはドイツ語で「薪の束」を意味し、英語圏では「バスーン」と呼ばれています。ベートーヴェンがその音色を「天からの声」と表し、こよなく愛したことで知られています。

オーボエと同じダブルリードの木管楽器で、音域は男性のテノールに近く、ソロに伴奏にと様々な役割を担い、また、伸びやかな音色や金切り声のような音色等を使い分けることができます。

ファゴットのための曲としては、「ファゴット協奏曲変ロ長調作品191」（モーツァルト作曲）が有名です。この曲はモーツァルトが18歳の時に作曲した作品で、曲中では当時のファゴットの特徴がいかに発揮されています。



豆知識 オーケストラの楽器の並び方

さまざまなバリエーションがありますが、一般的には客席側から音の小さい順に弦楽器群、木管楽器群、金管楽器群となります。また、各楽器群では高音楽器ほど左側に配置されます。これは、ヴァイオリンの音の出口（f字孔）を客席側に向かせるための配置です。また、右耳から入った音は左脳へ、左耳から入った音は右脳へ伝えられると言われていますが、音楽は左耳から聴いて右脳（直感的、創造的な考えを担当）に伝える方が良いということを経験上すでに音楽家達は知っていたのかもしれません。

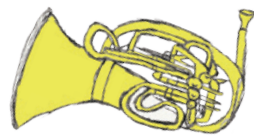
尚、オーケストラの並び方は指揮者の好みによって変えられることもあります。



金管楽器

Horn ホルン (Horn = 角) は、その名の通り角笛がその起源です。時には素朴で叙情的な音色を、また時には金管楽器特有の力強く重厚な音色を奏でます。他の楽器との相性がよく、金管楽器の中では比較的早い段階でオーケストラの定位置を獲得しました。

モーツァルトのホルン協奏曲が有名ですが、ベートーヴェンをはじめ、ドイツ系の作曲家にも愛され、数々の名曲が残っています。



Trumpet

バロック時代には既にオーケストラの定位置を獲得し、最も早い時期から金管楽器としてオーケストラをダイナミックに演出してきました。また、その華々しい音色は「強さ」の象徴でもあり、軍隊音楽に好んで用いられました。

トランペットの活躍の場はクラシックにとどまらず、ジャズやポップスなどにも及び、ルイ・アームストロングやマイルス・デイヴィス等の演奏家が有名です。



木管、金管楽器の違い



豆知識

木製だから木管楽器、金属製だから金管楽器と思われがちですが、元は木製だったフルートは現在、金属性が主流となりましたが木管楽器に分類されます。従って素材だけでの分類は困難となっています。

金管楽器はマウスピースに押し当てた唇を震わせて音を出します。唇がリードの役目を果たしています。一方、木管楽器は葦で出来たリードを使って音を出します。フルートはエアリードといって、リードはありませんが、吹き口のエッジ部分を空気で震動させて音を出しています。このように、「木管楽器」と「金管楽器」は音の出し方で分類されているのです。

演奏家から一言!



キリル・ロディン
チェリスト
モスクワ音楽院助教授
チャイコフスキー国際コンクール優賞
ベオグラード国際コンクール優勝

日本の皆様こんにちは！チェリストのキリル・ロディンです。現在、モスクワ音楽院で助教授をしながらヨーロッパを中心に世界各国で演奏活動をしています。もちろん日本へも何十回も訪れ、北海道から沖縄県までの様々な地方都市で200回以上コンサートに参加しました。日本は私にとって第二の故郷です。日本語もたくさん覚えました。コンサートの最後に、関西では「オオキニ」、沖縄では「ニフェーデービル」というと、とても喜んで頂けます。さて、話を音楽の話題に戻します。私は、日本の地方都市と同じくらい多くヨーロッパ各

国の地方都市を訪れました。全ての国の聴衆がクラシック音楽を愛してくれていることを肌で感じます。但し、日本とヨーロッパとの違いは、地方都市でクラシックコンサートが開催される頻度が、日本は圧倒的に少ないということです。コンサート会場での演奏は、CD等と違い、我々演奏家の息づかいや表情等も聴衆に伝えることが出来ます。当然私たちも聴衆の息づかいや表情を感じながら演奏しています。一つの空間を我々演奏家と聴衆が共有することは大変意義深いものです。生の演奏に触れる機会を創出して、クラシックファンが増えることはとても良いことだと思います。日本の皆様にクラシック音楽をもっと知ってもらい、そして好きになってもらうように、また日本に行ってコンサートが出来ることを楽しみにしています。マイド、オオキニ！

個人賛助会員入会のご案内

気軽に一流のクラシック音楽に触れる機会を、日本の隅々にまで提供することを目的に、当協会では1992年から2014年までの23年間で、北海道から沖縄県に至るまで41都道府県100市区町村において279回のコンサートを開催して参りました。全てのコンサートは、日本政府関係各省庁や開催各地の地方公共団体をはじめ、各種団体、民間企業のご支援等により、入場無料として開催することができました。コンサートに参加された国民の皆様からは、「とても良いコンサートであった」と高い評価を頂いております。

また、当協会は平成26年10月に公益社団法人の認定を受け、より活発な活動を目指しているところです。

公益法人制度改革を経て、より一層の法人自立が求められている中、この素晴らしい事業の永遠の存続と更なる発展を期して、一人でも多くの国民の皆様方に、個人賛助会員へのご入会を通じて、当協会の活動をご支援頂きたくお願い申し上げます。

【個人賛助会員に関する詳しいお報せはコチラ】



<http://www.imea.or.jp/web/support>

クラシックって楽しいな！ (楽器にまつわるエトセトラ)

制作：公益社団法人国際音楽交流協会

武田薬品工業株式会社
学校法人梅檀学園東北福祉大学
サントリーホールディングス株式会社
株式会社大原の里
ダイキン工業株式会社
本願寺
影近設備工業株式会社
大阪ガス株式会社
アステラス製薬株式会社

助成：一般財団法人日本宝くじ協会

協力：株式会社コスモ・アーツアンドテクニクス

挿絵：指宿京

発行：2015年8月

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



【桜】



【世界遺産年報】



【パトロール車】



【ベンチ】



【ジャンボ絵本】



【移動採血車】



【一輪車】



【ステンドグラス】



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。



一般財団法人

日本宝くじ協会

ホームページ

<http://jla-takarakuji.or.jp/>

